

だれかのしあわせのために

外ヶ浜町立三厩小学校 三年 濱谷 樹璃

二年前のことです。わたしの学校で赤い羽根共同ぼ金の活動をおこなっていて、わたしは初めてぼ金をしました。わたしがぼ金をした理由は二つあって、「みんながやっているから」「赤い羽根がほしいと思ったから」というものでした。わたしがぼ金をしたのはたった十円でしたが、それでも

「ぼ金、ありがとうございます。」

と言ってもらえると、とてもうれしい気持ちになりました。そして、その言葉といっしょに赤い羽根をもらえたこともうれしくて、その羽根はしばらくの間、筆ばこの中にはって大事にしていました。「来年もぼ金して、赤い羽根をもらいたいな」と、そう思いました。

それから一年後、また学校でぼ金活動が始まりました。去年と同じようにぼ金をして赤い羽根をもらったのですが、前とはちがう気持ちになりました。去年は赤い羽根をもらえたうれしさでいっぱいでしたが、このときは「どうしてぼ金に協力すると、赤い羽根がもらえるのだろう」と感じたのです。わたしはその理由をどうしても知りたくなり、先生に聞いてみました。すると、赤い羽根共同ぼ金のホームページを使って、いろいろなことを教えてくれました。中でも、いんしょうにのこったのは、赤い羽根にこめられた意味についてです。赤い羽根には「たすけあい」「おもいやり」「しあわせ」という三つの意味がこめられていることを知りました。「わたしがぼ金した十円も、だれかのしあわせにつながっていたのかもしれない」と思いました。とても小さなことだけど、だれかをたすける力になれていたことが、うれしく感じました。

人のために何かをすると、ありがとうと言われなくても、なんだかうれしい気持ちになります。わたしはこれからも、だれかのしあわせにつながるようなことを、少しずつでも続けていきたいと思います。